

第3回裾野市総合計画審議会意見対応状況シート

参考資料1

番号	大項目	中項目	委員	意見内容	対応状況
1	総合計画	ウーブン・シティと総合計画との関係	望月康男委員	ウーブン・シティは市に相当なインパクトを与えただけでなく、暮らし全般に絡んでくる話なので、もう少し総合計画の中にウーブン・シティの内容を取り込んでほしいのではないか。	現時点ではウーブン・シティの中身の詳細が不明なため、具体的な記載は難しい状況にありますが、人や企業が多く訪れることが想定されるため、岩波駅周辺の整備や深良新市街地構想と連動した受け皿づくりを検討してまいります。
2	総合計画	ウーブン・シティと総合計画との関係	出口委員	10年間の総合計画の中では、トヨタが大きなキーになる。もう少しウーブン・シティに関する具体的なものを総合計画に入れ込んでほしいのではないか。	現時点ではウーブン・シティの中身の詳細が不明なため、具体的な記載は難しい状況にありますが、人や企業が多く訪れることが想定されるため、岩波駅周辺の整備や深良新市街地構想と連動した受け皿づくりを検討してまいります。
3	総合計画	総合計画基本構想の大綱1の表現	山本委員	「ひとりひとりが輝けるまち」という表現はすごく誤解を生みやすい。他者との連携の中で「ひとりひとりが役割を持てる」ということなら分かるが、いきなり「ひとりひとり」となると今どき個に対して働きかけるのか？ということになり、近代の発想に逆戻りすることになる。ここで表現したいのは、多様性の視点とか差別・偏見をなくしようとか、誰でもチャンスを持てるということだと思うが、個に焦点を当てる教育はズレている。「ひとりひとり」という表現は修正をお願いしたい。	御意見を踏まえ「ひとりひとりが役割を持ち輝けるまち」に修正しました。
4	総合計画	総合計画の成果指標	山本委員	今、設定されている成果指標では、取組みの質の評価が全くできない。単純に数が上がったから良かったとかいうことではなく、質的な変化を追えるような指標を組み入れていただきたい。	定量的な成果指標の内容を精査するとともに、定性的な評価が可能な状態指標を検討します。
5	総合計画	ウーブン・シティと総合計画との関係	藤井先生	「ウーブン・シティと連携したコンパクトシティ・プラス・ネットワーク」という施策の柱が立っているが、単なるコンパクトシティ・プラス・ネットワークで連携するというのではなく、ウーブン・シティから出てくるものを都市計画の中にどう組み込むかということをもう少し都市マス絡みのところから意見を聞いて、総合計画の中に組み込む必要がある。	都市計画を担当するまちづくり課とも連携を密にしながらウーブン・シティの実現に向けた行政手続き上の支援を進めているところですが、ウーブン・シティの中身の詳細が不明なため、現時点では具体的な記載が難しい状況にあります。ただし、「ウーブン・シティと連携したコンパクトシティ・プラス・ネットワーク」につきましては、時間軸も考慮した上で、施策の柱の名称や基本事業の内容について再検討します。
6	総合計画	ウーブン・シティと総合計画との関係	藤井先生	ウーブン・シティは世界標準のまちづくりにつながっていくので、総合計画として国際的な人たちを受け入れる仕組みや教育の仕組み、多分化共生についても考えなければならない。	今後のまちづくりを進めていくにあたっては、そのような仕組み作りが必要だと考えます。どのように記載するか難しい面もありますが、表現について検討します。
7	総合計画	人や企業に選ばれるまちづくり	西野委員	まちづくりの方針の「人や企業に選ばれるまち」というのは受け身なので、もう少し地域主体の姿勢で、むしろこちら側から選ぶぐらいのプライドを持ってやっても良いと思う。	当初検討していた「人や企業を呼び込むまち」ですと少し表現が強く、直接的な感じがしすぎるという意見が庁内からありましたので、「人や企業に選ばれるまち」のまましていきたいと考えます。
8	総合計画	安全・安心に住み続けられるまち	西野委員	今回のパンデミックの内容が反映されていないので、単なる防災という考え方ではなく、それ以外の色々な経済危機や政治的なテロとか色んなことが考えられるので、安全・安心のところにもう少し広い意味でのパンデミックを入れていただいて、危機に強くしなやかなまちの形成というものを目指していただけたらと思う。	御意見のとおり基本構想の「社会情勢の変化(外的要因)」(P6)に新型コロナウイルスについて追記しました。施策の大綱及び基本計画への記載については担当課と調整中です。
9	総合計画	総合計画の成果指標	藤井先生	成果指標の設定の仕方に悩んでいる自治体は非常に多い。ある自治体では数値で出せる「基本指標」と定性的に評価するための「状態指標」というものを検討している。結果が1年ごとに出るものや5年、10年経たないと出ないというものもあるので、時間的な経緯の中で成果指標をきちんと分類していくような考え方を持っていないかといけなかなと思う。個別数値が出るものだけにこだわらず、少し枠を広げた形で検討していただけるとありがたい。	定量的な成果指標の内容を精査するとともに、定性的な評価が可能な状態指標を検討します。
10	総合計画	健康寿命	望月康男委員	高齢者の項目のところにもう少し「健康寿命の延伸」というものを入れてほしい。	基本構想の「施策の大綱3」(P18)に健康寿命の延伸について追記しました。

第3回裾野市総合計画審議会意見対応状況シート

参考資料1

番号	大項目	中項目	委員	意見内容	対応状況
11	総合計画	総合計画全般	岩瀬委員	ウーブン・シティは裾野市の地味なイメージを変える大チャンスとなる。せっかく裾野市に人が来てくれても飲食店が少ないからご飯は沼津市とかに行ってしまうのでは勿体ない。(生活の一番近い所に目を向けていただき、もう少し分かりやすく織り込んでいただきたい。	総合計画はまちづくりの方向性を示す総合的な指針となるものですので、個別具体的内容を記載するのは馴染まない側面もありますが、御意見のとおり市民生活の一番近い所を意識してまちづくりを行ってまいります。
12	総合計画	総合計画全般	小川委員	裾野市は東京から100キロ圏内で、観光資源も沢山あり、健康寿命も長いということですからチャンスのある都市だと思う。岩瀬委員からもあったように食文化みたいなところで裾野市にきたいよねというような具体論がもっと進むと良いのではないかと感じた。	飲食店の立地は商圈人口等を踏まえて民間事業者が出店の適否を判断しますので、行政が主体的にリードすることは難しいですが、まちの賑わいをいかに作り出していくか、今後も検討してまいりたいと考えます。
13	総合計画	産業	西野委員	商業、農業、漁業については働き方が厳しいために利益があっても後継者が減ってしまっている。その辺の働き方改革を進めないと後継者が育たないため、そういう視点で対策をやっていただきたい。	デジタルシフトに対応するまちづくりを推進することにより、産業面での業態変革を促し、働き方改革につなげていきたいと考えます。
14	総合計画	観光	西野委員	環境変化で産業観光というのはかなり注目されるのではないかと。新しい実証都市ができると視察・研究・学習に来る人たちがあるので、そのような視点も入れても良いのではないかと。	ウーブン・シティの視察等に来る人々に対して市としてどのようなことができるかを検討してまいります。
15	総合計画	総合計画全般	山本委員	裾野市として何を打ち出すのか。全部を漏れなく網羅すると作文になってしまうので、全部の市民が共有してこういふ方向に進むんだというような明確な作り方が大事だと思う。今回、チャンスがやってきたと考えるのであれば、そこを徹底するような、みんなが同じ方向を向けるような施策が必要ではないか。	ウーブン・シティができることにより、将来都市像として掲げる「田園未来都市」が前よりもイメージしやすくなると思います。市としてもウーブン・シティのエリア外で展開する次世代型近未来都市「スノ・デジタル・クリエイティブ・シティ」の具現化を目指してまいります。
16	国土利用計画	将来都市構想図	望月康男委員	インター線と仙石原新田線を繋げた方が良い。岩波駅を下げると広い土地があるので、用途変更してうまくできないのか。	現在、県道仙石原新田線の早期全線供用開始に向け、県へ要望活動をしております。全線供用開通時には裾野ICから箱根までの所要時間が約15分となり、また現在整備を進めている(仮称)神山深良線が開通することにより、裾野市、御殿場市、箱根町を結ぶ新たな観光ルートとなること等が期待されます。同時に、ウーブン・シティ周辺等の整備及び地域との融合を見据え、まちづくりの検討をしていきます。
17	国土利用計画	土地利用区分ごとの規模の目標	出口委員	色々な企業から裾野市に立地したいという相談を受けることがあるが、土地がなくて企業立地が進まずに断念する企業を何社か知っている。平成27年から平成32年までで工業用地が4ヘクタールの増加ということだが、4ヘクタール程度では企業立地はほとんどできない。どんどん企業立地するような形になっていただきたいので、規模のところについては、適切な規模感で検討してほしい。	今後の社会情勢を踏まえ、将来フレームを検討します。
18	国土利用計画	将来都市構想図	市川委員	環境の観点から考えると「点」で自然環境を守ることは困難なので、「緑の回廊をここに残す」とか、そこに人が休める場所を作るとか、そういう構想がこの図から読めるような形になると市民の満足が得やすい構想になるのではないかと。	国土利用計画は、自然保全地域、自然公園地域、都市地域、農業地域、森林地域の各個別規制を統括し、総合的な計画体系を構築します。ご意見の緑の回廊につきましては、平成31年3月策定の「緑の基本計画」の緑の将来像で位置付けをしております。(参考:緑の基本計画p100,101)
19	全般	富士山	八木会長	昔から「一番美しい富士山が見えるまち裾野市」というのを謳っている。これをもう1回再認識してアピールしてほしい。	御意見を参考にしながら、引き続き富士山を始めとする地域資源の活用により、市の魅力をPRしてまいります。